

コロナ禍での楽しかったその時

孟鶴宇

MENG HEYU

コロナのせいで、世界中の人々の生活様式が変わりました。中国では、コロナがひどかった時期もあります。当時の私は、大学を卒業したばかりで、本当はすぐ来日し、留学生活を始めるはずだったのに、結局、中国で3ヶ月待たされた後、日本に来ました。

待機期間の3ヶ月は長かったかといえば長かったし、短かったかといえば短かったという印象です。しかし、この3ヶ月間は、私の生活様式を大きく変えました。

コロナ前は大学で毎日授業があり、授業後、ピアノの練習室に行き、4時間ぐらい練習していましたが、他の活動は特にしていませんでした。今思い出したら、ちょっとつまらない毎日でした。そして、コロナの感染爆発以降、全国各地の人々はパニックに陥りました。私が住んでいる町も同じでした。家を出たら、みんなマスクをかけていて、ぶらぶら歩いている人もいなかったし、知り合いと喋る人もいませんでした。外出する人も日に日に少なくなりました。町が急に寂しくなりました。

私もその時、あまり家を出なくなりました。最初は本当に楽しかったです。毎日十時ぐらいに目覚め、ベッドに横になったままスマホを見ます。一時間ぐらい後、母が作ったご飯を食べ、ベッドに戻り、ドラマや映画を見続けます。夕方6時ぐらいに晩ごはんを食べ、再度ベッドに戻り、夜お風呂に入り寝ます。その時はもう大学を卒業していたので、授業も宿題もなく、気楽でした。

しかし、しばらくして「これじゃだめだ」と気

づきました。このままでは時間を無駄にするだけです。そこで、もう一度日本語を勉強し始めました。毎日30ぐらい単語を暗記したり、以前勉強した文法を復習したりしました。そして、日本人の先生とネットで会話練習しました。今、日常会話はまだ苦手ですが、その時の練習は私にとって本当に役立ったと思っています。

また、私は元々、運動を全然しない人でしたが、その時は毎日父と一緒に公園を散歩しました。散歩とはいえ、歩くスピードは速く、毎回汗をかきました。汗をかいたら、気分も良くなりました。ちょうどその時、日本語学校のオンライン授業も始まりました。すると、私のスケジュールは次のようになりました。まず、毎日七時半に起き、朝ごはんを食べ、授業を受けます。それから、12時半に昼ごはんを食べ、少し寝ます。午後は日本語を勉強したり、飼い猫と遊んだりします。そして、5時半ぐらいに、仕事が終わりに帰宅した父と一緒に公園に散歩に行きます。時々母も一緒に行きます。7時ぐらいに晩ごはんを食べ、自分が好きなドラマを見ます。最後に、お風呂に入り寝ます。

この3ヶ月間、自分でスケジュールを作り、家族とゆっくり過ごしました。私にとって、この期間は本当に楽しかったです。

もちろん、コロナは悪い病気ですが、退屈な生活の中でいかに新しい楽しみを見つけるかは自分次第です。みなさんも考え方を变えることで、新しい楽しみを発見してみませんか。